

胎児超音波検査で確認し得た先天性内反足の1症例

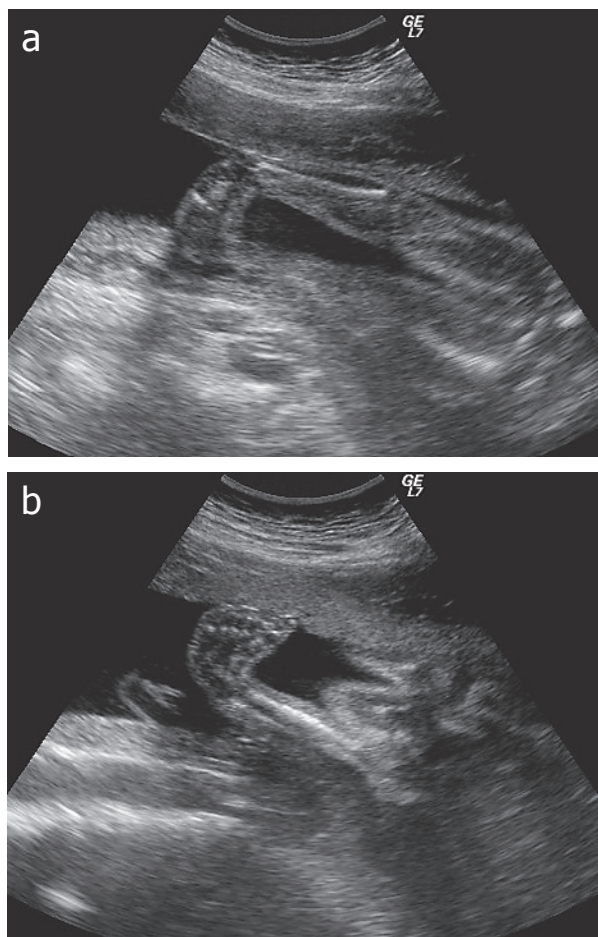
井西 千晶¹ 森 雅美¹ 中尾 由佳¹ 錦 昌吾¹ 山田沙由理¹ 松倉 登²

Fig. 1 a 内側に屈曲変形した左足. b 内側に屈曲変形した右足

【症例】 28歳，初産婦．妊娠24週で胎児超音波スクリーニング検査を施行した．下肢を伸ばした状態で，足は両側共に内側に屈曲変形して観察され（**Fig. 1 a,b**），足底は内転，凹足による変形が見られた（**Fig. 2**）．経時的に観察したが内側への屈曲変形に変化は認めなかった．主治医により先天性内反



Fig. 2 内転，凹足により変形した足裏

足の可能性があるとの説明がなされ，妊娠37週5日帝王切開にて出生．出生後，両足部は下腿軸に対して果部より約60度内反，内転し，徒手的に矯正不能，アキレス腱拘縮も認め先天性内反足と診断された．他院に紹介，転院となり，初期重症度評価では重度変形であった．Ponseti法による内反足矯正ギブスにて治療することとなった．

【考察】 先天性内反足は，前足部の内転，後足部の内反，尖足，凹足の4つの変形と拘縮を認める．超音波画像上，健常例の下腿を矢状断で描出した場合，通常，足首は背屈しているため，膝と足先は同一断面上には描出できないが，先天性内反足では，尖足により膝から足先まで同一断面上に確認され，さらに内反，内転により足先が左右向かい合うように観察された．足底は内転，凹足による変形が見られ，尖足により踵と足首の境界が不明瞭であり，足底を描出しようとする时下腿の一部が見えてくるのが特徴であった．

胎児超音波検査は先天性内反足の出生前診断に有

A case of congenital clubfoot by prenatal sonography

Keywords: congenital clubfoot, prenatal sonography

¹医療法人宝生会 PL 病院中央臨床検査部, ²同整形外科

Chiaki INISHI, RMS¹, Masami MORI, RMS¹, Yuka NAKAO, RMS¹, Shogo NISHIKI, RMS¹, Sayuri YAMADA, RMS¹, Noboru Matsukura²

¹Department of Clinical Laboratory, ²Department of Orthopaedic Surgery, PL General Hospital, 2204 Shindo, Tondabayashi, Osaka 584-8585, Japan

Received on March 22, 2018; Revision accepted on July 24, 2018 J-STAGE. Advanced published. date: September 28, 2018